

第901号

令和6年12月2日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

わかればわかる，かわればわかる

佐渡市立金井中学校
校長 雑賀 裕

駆け出しの頃に，先輩教師から教わった“謎めいた言葉”です。

以前担任したAさんを思い出します。吃音があり，直ぐにかんしゃくを起こし，気に入らないと誰彼構わずツバを吐きかけるAさんは，教室を飛び出しては私に説教される毎日でした。

ある時，説教に疲れた私は黙って横に座ることにしました。20分間の沈黙の後，Aさんから「俺，邪魔者なんだよね」と言葉がこぼれました。私はハッとして“聴き”に徹しました。Aさんは，「寂しかった」「みんなの役に立ちたい」と語ってくれました。説教していた頃の私は，Aさんに話させる時間を与えていなかったのです。

「将来の夢」の発表者選びで，Aさんが立候補しました。賛成するクラスメートの表情はどことなく懐疑的に見え，私は心配でしたが，本番に向け，原稿の見直しや発表練習に取り組みました。発表当日，『僕の夢は，料理人になって自分の店で家族にご馳走することです。』と立派に発表したAさんと心からの拍手を送るクラスメートの姿がありました。



かわりを変えることで心が分かり，心が分かることで支援が変わり，子どもの成長につながった貴重な経験です。

ほめる機会を増やしていこう

子ども若者相談センター
相談センター長 木下 久美子

「やってみせ 言って聞かせて させてみせ

ほめてやらねば人は動かじ」

これは私が子育て中によく自分自身へ言い聞かせていたことで，山本五十六の名言の一つです。子どもが新しいことを覚えようとするとき，不器用な私は，できるだけ子どもと同じ体験をしました。失敗しては挑戦し，いずれ子どもは親を尻目に上手になっていきます。不器用な私はよく取り残されましたが，子どもをほめる機会になりました。

最近読んだ書物に「スマホやタブレットで童話や昔話を見ている子どもが増え，以前より童話や昔話が身近になっている。ただ，映像による記憶は残るが正確な言葉が記憶されておらず何を意味しているか分からない。言葉を聞いただけでは内容を理解することが苦手である」とありました。コミュニケーションの上達には，見せるだけでなく，言って聞かせる絵本との二刀流が「今どき」なのかな。そして本が読めるようになった子どもは，ほめられる機会も増えるはずです。



自分を語る言葉をもつ



私がことば・こころの教室で大切にしていることは、子どもたちが「自分を語る言葉をもてる」ように、話を聞いたり、言葉に表せるよう指導したりすることです。

『『にっこり』と『がっかり』の話』、「悩み」、「苦手だけど上手かったこと」、「なりたい自分」…。なかなか言葉にならない子は、言葉が出るまでじっと待つようにしています。自分を語れた子どもは、聞いて欲しくてうずうずしていた気持ちが満たされたり、募っていた不安がはき出されたりして、すっきりとした表情で自分の学級へ戻っていきます。

大人も自分を語る言葉をもつ人は、晴れやかな表情の人が多くなります。満たされることのない淋しさや悲しみ、そして大きな不安も、語ってみると感情的な気持ちが客観視でき、はき出すだけですっきりしたり、周りから意見をもらえたりするチャンスが増えます。晴れやかな気持ちで人生を歩んでいける「自分を語る言葉をもつ」大人になって欲しいと思いながら、今日も子どもたちの話に耳を傾けます。(本間雅美)

【ミニ講演会】ご案内

「子どものメディアコントロール」

- ◆日時 令和7年1月29日(水) 15:35~16:40
- ◆会場 金井小学校 会議室
- ◆講師 杉坂 芳文様(一般社団法人「ぱすてるるーむ」代表理事)
- ◆内容 ・メディアコントロールの理解
・子どもへのメディアコントロール
- ◆申込み 興味のある方は、二次元コードより申込みをお願いいたします。
- ◆締切 令和7年1月16日(木)



▲申込みはこちらから

【問合せ】

金井小学校内 佐渡ことば・こころの教室
TEL: 63-4156 (直通)

保護者の声

中学生保護者

子どもは、ことば・こころの教室が大好きで、毎月楽しみに通っています。先生は、いつも笑顔で子どもの話を聞き、子どもの好きなことを一緒に楽しみ、時には学校での困り事への解決策を考えてくださいます。いつしか受け身の我が子が、先生に自分の趣味を話すようになりました。言葉を選びながら、一生懸命話す姿がとても印象的でした。伝えたい気持ちと受け入れてもらえる安心感を得られたのだと思います。

私自身も先生方から子どもへの接し方等多くのことを学ばせていただきました。中学卒業と同時にことば・こころの教室も卒業になると思いますが、高等学校に通級指導教室の設置が実現されることを願っております。長年に渡り、ご指導いただき、ありがとうございました。



第2回学習会が開催されました

11月23日(土)に兵庫教育大学教授小川修史様をお招きし、「多様性を受け入れる共生社会の在り方について」の学習会を行いました。

「合理的配慮」とは何かなど、ユーモアを交えながら、具体的に話してくださいました。また、「魅力的な」ユニバーサルデザインを行いたいという思いから、車いすユーザーのための巻きスカートの開発(bottom'all)やジェンダーレス制服(ミライの制服プロジェクト)について、実物や写真を見せながら、話をしてくださいました。後半は、杉坂芳文様、高柳一巳様、渡辺智美様をお迎えし、佐渡の共生社会について、パネルディスカッションを行いました。参加された方々からは、「目からうろこの時間になった」、「生きることの大切さを感じる事ができた」などの感想をいただくなど、大変好評な学習会になりました。

第1回判定会議

10月25日(金)ことば・こころの教室「第1回判定会議」が開かれました。保育園、幼稚園、小・中学校在籍のお子さん合わせて新たに43名の入級が認められました。

第2回運営会議

11月13日(水)に第2回運営会議が開かれ、今年度の中間報告と次年度の教室運営について審議が行われました。ご意見を今後の教室運営に活かしていきます。